



# 各地に建立された慶應義塾「記念碑」

現在のキャンパス以外にもかつて「慶應義塾」が存在していた。各地にその痕跡を今に伝える「記念碑」があることをご存じだろうか？  
発祥の地である東京・築地鉄砲洲、明治初期に分校が開校した大阪、京都、徳島。  
今回は慶應義塾ゆかりの土地に建立された4つの記念碑について、写真とともにその来歴や特色について紹介する。

## ここから全てが始まった 「慶應義塾発祥の地記念碑」

1858（安政5）年、中津藩中屋敷内で藩士・福澤諭吉が蘭学教授を開始した。これが慶應義塾の起源とされる。中屋敷は江戸・築地鉄砲洲、現在の東京都中央区明石町の聖路加国際病院の建物の辺りと推定されている。



設計：谷口吉郎

この記念碑は義塾創立100年記念事業の一つとして、1958年に聖路加国際病院敷地内に建立。1982年に区道路整備に伴い、従来の位置から病院前の

交差点ロータリーに移転された。

谷口吉郎設計による記念碑は、黒御影石の台座に花崗岩製の書籍の形をしたオブジェが置かれ、表面には『学問のすゝめ』初編初版本の活字と同じ字形で「天は人の上に人を造らず 人は人の下に人を造らず」と刻まれている。なお、同じ中屋敷内で藩医の前野良澤らが『解体新書』を翻訳した事績により「日本洋学発祥の地記念碑」も隣接して建立されており、2基を合わせて「日本近代文化事始の地記念碑」と称されている。

## 最初の分校として建てられた 「大阪慶應義塾跡記念碑」

明治初期、慶應義塾は地方の学生が就学しやすいようにとの配慮から西日本に3つの分校を設置した。その第1号となったのが「大阪慶應義塾」だ。1873（明治6）年11月に「南大組第六区安堂寺橋通三丁目第百九十二番屋敷丸家善蔵扨家」に開校し、翌年に北浜町2丁目にあった小寺篤兵衛の家に移転すると伝えられる。1875（同8）年



設計：日建設計

6月に閉鎖されるまでの2年ほどの期間ではあったが、大阪慶應義塾では英書科75名、訳書科11名の計86名の学生を輩出している。

記念碑は2009年に小寺篤兵衛屋敷跡（大阪市中央区北浜2丁目）に土地所有者のご厚意を得て建立された（設計・日建設計）。陶器質（白色施釉）の塔の表面には福澤の筆跡で「独立自尊」と刻まれている。

## 京都府庁内に設置された「京都慶應義塾跡記念碑」

大阪慶應義塾設立から遅れること約3カ月、1874（明治7）年2月に京都慶應義塾が開校した。これは福澤と深い親交があり、京都府政を主導していた横村正直



設計：上野伊三郎

京都府参事の要請による。およそ1年間の短い期間であったが、京都慶應義塾は旧京都守護職邸内の京都中学校に間借りして、「英書」「洋算」「訳書」を教授した。この場所には後に京

都府庁が置かれた。

記念碑は1932年に京都慶應倶楽部によって建立。花崗岩製の石碑の表面には福澤の筆跡による「独立自尊」の文字と建立当時の塾長だった林毅陸の揮毫による「明治七年 京都慶應義塾跡」が刻まれた。京都府庁の門をかつて左側、守衛所の奥まった場所にある。

## 大阪慶應義塾を受け継いだ「徳島慶應義塾跡記念碑」

徳島慶應義塾は、徳島の有力者たちの要望と援助により、1875（明治8）年6月に閉鎖された大阪慶應義塾を引き継ぐ形で、同年7月に開校し、翌76年11月まで存続した。徳島慶應義塾の正確な所在地はよ



設計：松永佳史

## 福澤近藤 両翁学塾跡

1868（慶応4）年、中津藩中屋敷の場所が幕府の方針で外国人居留地となったため、福澤は私財を投げ打ち芝新銭座（現・港区浜松町）の越前丸岡藩中屋敷の一部を買取って、約4年間塾舎とした。慶應義塾が三田に移転後、ここに、近藤真琴が創立した攻玉社が移転してきたため、現在、跡地には2人の学塾創立者を顕彰する記念碑が建っている。

くわかっていない。当時の設立願に書かれた地名から旧藩主の蜂須賀家「東御殿」があつたホテル敷地内と推定され、2001年4月に徳島慶應倶楽部が中心となり、黒御影石製のスパイラル型モニュメントとステンレス製の銘板による記念碑が建立された。銘板に彫られた「独立自尊」は福澤の筆跡だ。その後、土地所有者の変更があり、2009年に県庁内に移設されている。